

授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定
(研究生産物を基に)

学習指導要領の指導内容から段階を決定

題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

題材計画構想

授業構想シートを活用

本時案作成

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

実践事例

指導内容：小学部2段階 A聞くこと・話すこと

教材と仕組み：『パズルを集めよう!』(全9時間)

お手伝い(教師の指示を聞いて、その行動をする)をすると、お礼にパズルのピースがもらえ、グループの全員で一つのパズルが完成する。



題材目標

知・技：「●●(場所)の▲▲(人)に■■(色)の★★(もの)を○○(もらっ/渡し)てきてください」の指示を聞いて、それぞれの視点カードの中から、指示に沿ったカードを選び取ることができる

思・判・表：場所、人、色、ものの視点を含む教師の指示を聞いて選んだ絵カードで作った“おてつだいボード”を見て、どのように行動するかを考え、渡すかもらうかを判断して、指示に沿って行動することができる

学び：ことばがもつよさを感じ、他者のことばを聞こうとする態度を養う

評価規準

知・技：指示を聞いて、場所、人、色、ものの視点カードを正しく選び取る

思・判・表：指示を聞いて、指示に沿って行動する

学び：することカードを見て、指示を聞く場面で耳に手をあてて聞くことを意識する姿が見られる

学習指導要領の内容から三つの柱の題材目標を決定する経緯と整合性の根拠



子どもへ望む姿と学びの系統性

〈実態と学びの系統性(中3生徒1名)〉

・日常生活において、2~3語文の簡単な指示を聞いて行動することができる

〈前年度の学習〉
「(場所)の(人)に(もの)を渡して(く)ださい」の指示を聞いて、指示に沿って行動する

〈題材で望む姿〉
場所、人、色、もの、動作の視点を含む指示を聞きとって行動する

〈小学部2段階の内容〉

【知識及び技能】ア(ア)、(ウ)

【思考力・判断力・表現力等】

イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をする

→実態と学びの系統性、望む姿から、小学部2段階の目標と内容を設定した

主体的で対話的で深い学びの実現に向けた工夫



“聞いて”“見て”自分でたしかめる

自分で正誤判断し、誤答時は選び直すことができるように、指示を聞いて選んだカードを、iPadで“聞いて”“見て”たしかめるようにした



知識及び技能と思考力・判断力・表現力等のそれぞれの内容の高まりやつながりについて



段階化と焦点化

〈知識及び技能の高まり〉

①聞き取る視点を2つから5つへと徐々に増やす

②教師のことばかけや指さしなどの支援を受けて選ぶことから一人で選ぶ

〈思考力・判断力・表現力等の高まり〉

①行動の仕方を判断する(渡すのみ→もらうのみ→渡す・もらう)

②教師のことばかけや指さしなどの支援を受けて行動することから、一人で行動する

〈生徒へ負荷がかかりすぎないように…〉

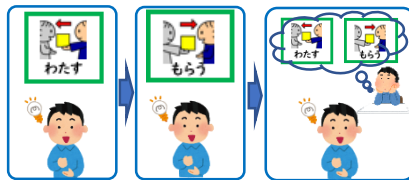
・内容を細かく段階化し、1時間の授業で学習する内容を焦点化した

・知識及び技能、思考力・判断力・表現力等それぞれの①と②の段階を同時に上げないように配慮した



判断につながる題材計画

動作の仕方を判断して行動することができるように、2つの動作の仕方をそれぞれ確認した後、題材後半に、2つの動作のどちらかを判断して行動する場面を設定した



三つの柱の目標を達成するための働きかけや工夫



主体性を引き出すための子どもの「わかった!」

〈知識及び技能〉

・本題材での新たな視点(色)について確かめるために、

色をテーマとした絵本の読み聞かせをする

・聞き取る視点に注目できるよう、聞く視点を視覚的に提示する

〈思考力・判断力・表現力等〉

・動詞と動作の仕方が一致するように、身近なことばで伝えて確認する

〈学びに向かう力・人間性等〉

・自分から課題に取り組むことや友だちの様子に注目することができるように、

指示に沿って行動することで、みんなで一つのパズルが完成するような教材を設定した



気づき・改善 考察

○学びの系統性と子どもの日常生活から想定される場面からの題材目標と場面設定が重要であるとわかった

・学びの系統性と子どもの実態から前題材までに学んでいる視点に新たな視点を追加した題材目標を設定したが、子どもの日常生活とつながらないものだったため、学びの系統性だけでなく、子どもの日常生活で起きうる場面を想定して、題材目標を設定する必要があると気づいた

○細かく段階化し、新たな学びや教師の支援の減少などの段階を同時に上げないように配慮することが意欲的に取り組むことにつながるとわかった

・知識及び技能、思考力・判断力・表現力等ともに、一度に学習する内容を絞り、題材計画において各視点の内容を一度に上げないようにすることで、題材を通して生徒が主体的に課題に取り組む姿が見られた

○自分でできる正誤判断が、自分からやり直すことや意欲的に取り組むことにつながるとわかった

・iPadを使用し、聴覚的、視覚的に自分で正誤判断をできるようにすることで、自分から課題に取り組むことや、間違えたときには再度課題に向かう姿が見られたので、自分で正誤判断ができる場面を設定するとよいとわかった

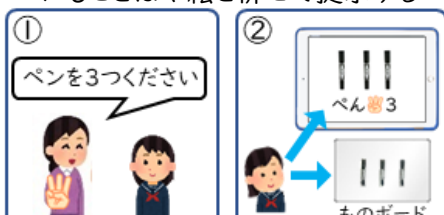

実践事例

| | |
|--------|--|
| 指導内容 | 小学部2段階 A聞くこと・話すこと 知・技:ア(ア)(ウ) 思・判・表:イ 学び:ウ |
| 教材と仕組み | 『おたすけポプラズになろう!』 指示をよく聞きくこと、指示に沿って行動することに意欲的に取り組むことができるように、指示に沿って行動し、困っている人を助ける設定とした。また、学校や家庭などで想定されるものと動作、ものと数の視点で聞き取る課題を設定した |
| 題材目標 | 知・技 ものと数(1~3と助数詞、1つ、2つ、3つ)を聞いて、ものと数の視点が含まれていることと数え方に応じた個数がわかり、1~3の『ものボード』から、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶ |
| | 思・判・表 「(もの)を(1~3と助数詞、1つ、2つ、3つ)持ってきてください」の指示を聞いて、ものと数え方に応じた個数を判断し、1~3の『ものボード』から、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を一人で選んで持ってくる |
| | 学び ことばがもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、ことばでのやりとりを聞こうとしている |
| 評価規準 | 知・技 「(もの)を(1~3と助数詞、1つ、2つ、3つ)ください」の指示を聞いて、異なるものや数を含む3つの『ものボード』から、指示に沿った『ものボード』を選ぶ |
| | 思・判・表 「(もの)を(1~3と助数詞、1つ、2つ、3つ)持ってきてください」の指示を聞いて、教室後方の棚の上にある複数のものや数の『ものボード』から、指示に沿った『ものボード』を選んでおたすけコーナーに持ってくる |
| | 学び 以下のような主体的な姿が出るかどうかで評価を行う ・教師の呼名や写真カードの提示に応じて、返事をしたり、自分から課題の場所に行こうとしたりする ・『おたすけボード』を見て、おたすけコーナーに行くなど、自分から次の課題に移ろうとする ・間違えていたとき、タブレット端末の音声や絵を見聞きし、自分でカードを選び直そうとしたり、行動し直そうとしたりする |

| 三観点 | 評価 |
|---------------|--|
| 知識及び技能 | ものと数を聞いて、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を一人で選ぶことができた。また、『ものボード』や絵本のイラスト、正誤判断のためのタブレット端末の画面を見て、「1、1つ」「2、2つ」など言う姿が見られた |
| 思考力・判断力・表現力等 | 教師の指示を聞いて、教室後方にももの種類ごとに分けて置かれた複数の『ものボード』から、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選び、おたすけコーナーにいる教師のところへ持ってくることができた |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自分からおたすけコーナーに行こうとする姿が見られた。間違えていたときには、タブレット端末の音声や絵を見聞きして、「あ、違った」と言い、展開場面(知識・技能)では、机上から正しい『ものボード』を選び直したり、発展場面(思考力・判断力・表現力等)では、再度指示に沿ったものを取りに行ったりする姿が見られた。また、指示を忘れたときには、自分から教師を呼び、指示を聞きに戻ってくる姿も見られた |

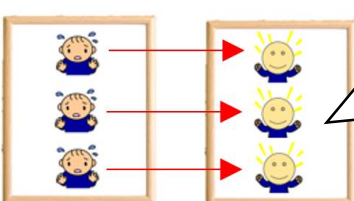



子どもの表現を生かした手がかり

| 望む姿 | 意図と働きかけ | 結果 | 改善内容とその結果 |
|--------------------------|---|---|---|
| ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶ | ①指文字を手がかりとする(支援あり) ②正誤判断のためのタブレット端末にもことばや絵と併せて提示する  | 教師のことばかけやタブレット端末の画面を見て、「2、2つ」など言うが、教師と異なる指文字をする | 支援ありの場面での、支援となる手がかり(指文字)や正誤判断の場面での、タブレット端末に表示する指文字をこどもが表現するときの指文字に変更した  すると、指示を聞いて自分から「2」や「2、2つ」など答えながら指文字をする姿が見られ、指示に沿った『ものボード』を持ってくることができた |



子どもの主体性を引き出す教材の仕組みと教具の工夫

| 望む姿 | 意図と働きかけ | 結果 | 改善内容とその結果 |
|----------------------------------|---|---|---|
| 「おたすけポプラズになろう!」で、最後まで自分から課題に取り組む | 見通しや課題への意欲をもつことができるように、課題の数や助けた人がわかる『おたすけボード』を作成する  課題が終わり、カードを裏返すと、教師や家族が喜ぶ絵になる | 『おたすけボード』を見て、次のカードを指さしていたが、友だちがおたすけコーナーにいると、席に戻り、教師が呼びかけるまで座ったままだった | おたすけコーナーの立ち位置のシートを複数人並べるように、帯状のものに変更した  すると、課題が1つ終わると、自分からおたすけコーナーに並んだり、一度席に戻っても、友だちが移動すると自分から指示を聞きにくることができた |

授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定
(研究生産物を基に)

学習指導要領の指導内容から段階を決定

題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

題材計画構想

授業構想シートを活用

本時案作成

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

【R研】
国語・算数の授業実施日に行う、授業の評価や改善について話し合う場



次題材に向けて

- ・正誤判断が自分でできると、間違えたときにやり直す姿や自分から課題に取り組む姿が見られた
→引き続き、他の題材でも、タブレット端末やカード等を使用し、生徒が自分で正誤判断し、自らの学習を調整しようとする姿や主体的に課題に取り組む姿につながるようにする
- ・作業学習で使用するものなど、教室内で使うものに比べて使用頻度が低いものになると、ものと数の両方を聞いて選び間違えることがあった
→今回は、主に教室や家庭でよく使用するものに限定し、題材後半には、様々な数の表現でも聞き取ることができるよう題材計画を設定したが、使用頻度の低いものも含め、生徒が知っている様々なものでも、ものと数を聞き取ることができるようになることを目的とした題材設定の必要性を感じた。よって、同様の視点で、他のものや数を増やす(数学との関連を踏まえながら)なども今後取り組んでいきたい